

子どもの人数 H25.9.1現在(年齢はH25.4.1現在)

地域	年齢	男	女	母集団
鎌倉	0	186	159	345
	1	178	136	314
	2	154	192	346
	1-2	332	328	660
	3	206	180	386
	4	181	196	377
	5	208	170	378
	3-5	595	546	1,141
				2,146
腰越	0	74	74	148
	1	57	75	132
	2	78	80	158
	1-2	135	155	290
	3	81	75	156
	4	97	70	167
	5	101	95	196
	3-5	279	240	519
				957
深沢	0	126	129	255
	1	143	132	275
	2	152	140	292
	1-2	295	272	567
	3	144	132	276
	4	163	134	297
	5	185	143	328
	3-5	492	409	901
				1,723
大船	0	163	168	331
	1	148	188	336
	2	197	150	347
	1-2	345	338	683
	3	169	170	339
	4	180	168	348
	5	177	176	353
	3-5	526	514	1,040
				2,054
玉縄	0	101	99	200
	1	102	79	181
	2	110	92	202
	1-2	212	171	383
	3	113	113	226
	4	126	99	225
	5	115	104	219
	3-5	354	316	670
				1,253
市内全域	0	650	629	1,279
	1	628	610	1,238
	2	691	654	1,345
	1-2	1,319	1,264	2,583
	3	713	670	1,383
	4	747	667	1,414
	5	786	688	1,474
3-5	2,246	2,025	4,271	
				12,000
				8,133

調査の制度を信頼水準95%の確率で標本誤差5%に収めるため必要な有効回答数(小数点以下四捨五入)

回収率69%を見込んだサンプル数(小数点以下四捨五入)
(※)「信頼水準95%の確率で標本誤差5%」とは「20回サンプリングをすれば、そのうち19回は母集団全体から得られる真の値の±5%の範囲に入る」ということ。

182	264	⇒	244	← $264 \times \frac{4,200}{4,538}$
243	352	⇒	326	※以下同様に算出
288	417	⇒	386	
107	155	⇒	144	+1補正している※切り捨てたうち、小数点以下が一番大きい
165	239	⇒	221	
221	320	⇒	296	
154	223	⇒	206	
229	332	⇒	307	
270	391	⇒	362	
178	258	⇒	239	
246	357	⇒	330	
281	407	⇒	377	
132	191	⇒	177	
192	278	⇒	257	
244	354	⇒	328	
3,132	4,538	⇒	4,200	

↑市内0-5歳児の約52%が対象
※0歳児1,010、1~2歳児1,441、3~5歳児1,749

↓必要な有効回答数の計算方法

標本数の算出(解説)

母集団で、ある条件を満たす比率を知りたい場合に必要なサンプル数の考え方は、以下のとおりとなります。

$$n = \frac{z^2 p q}{e^2} \times \frac{1}{1 - \frac{1}{N} + \frac{z^2 p q}{e^2} \times \frac{1}{N}}$$

N は母集団の数
n は標本数
e は標本誤差
z は信頼水準で決まる値
p は過去の調査で得られた比率
q は (1-p)

上の式は、母集団の大きさが十分に大きいときには(目安として1万より大きい)、簡略化して以下のようにあらわすことが可能です。

$$n = \frac{z^2 p q}{e^2}$$

なお、信頼水準とは、標本から得られた値が、母集団全体から得られた真の値の中に含まれる確率です。一般的な統計調査では、信頼水準95%を用います。

信頼水準	係数Z
90%	1.65
95%	1.96
95.5%	2
99.7%	3

ここで、p×qはそれぞれ50%のときに最大となりますので、まだ実施していない調査の場合には、(0.5×0.5=0.25)として考えます。調査実施後に誤差の検証をする場合には、実際の数値に置き換えます。